

「ディア・ペイシェント」～絆のカルテ～著者：南 杏子（みなみ きょうこ）

南杏子氏の第2作目の作品で、医療現場における医師と患者とのリアルな実態を訴えているような内容である。主人公は、真野千晶35歳。医師になって10年目。大学病院を経て神奈川県川崎市の佐々井記念病院の内科に勤務。患者を大切にする病院で知られていた。

内科では、励まされることが多く心の支えとなっていた6歳上の先輩の姉御肌の浜口陽子先生と病院の医師の扱いに不満を持っていた口の悪い2年上の金田直樹先生が同僚であった。

父の徹は、山梨で地域医療を支える真野診療所の医師で74歳。母の佑子は認知症ぎみで施設に入所。妹の万里は診療所の医療事務で父を支えていた。父は今年で診療所を閉じるつもりでいた。妻の看病をしたいと思っている。千晶は診療所を継ぐかどうか迷っている。

佐々井記念病院では、週2回開催される「患者様プライオリティー推進委員会」が開催され、病院職員全員の意識改革に取り組み、患者様中心の営業的な対応を求めた。クレームは職員に非があるとし、本来必要な職員のストレスなどの対策は二の次の状態であった。

診療はいつも苛酷で、患者一人当たり一人4分が目標。とても現実的でない診療時間である。昼食も取れない状況である。

本日の仕事が終わり、医局に荷物を取りに戻り帰ろうとしたとき、待合室から突然現れた人物が、千晶に声をかけた。今後千晶を苦しめるクレマーの座間敦司との初めての出会いであった。

ある日病院の食堂で食事をしていたら、座間が千晶の伝票を取って支払ってしまった。お金を返そうにも座間は立ち去ってしまった。とっさの出来事で後悔したが食事代ぐらいと軽く見ていた。座間の計画的な行動であった。座間は千晶に必要以上の何倍もの睡眠薬を出すよう迫ったり、私物を窃盗するなど犯罪としか思えない行為が相次ぐ。これらはネットで千晶を責める材料にされていた。

陽子先生から千晶にLAINが入っていたことを知らされる。ネットで千晶が誹謗中傷されている。座間からの攻撃である。座間のブログでは、千晶への執拗な攻撃が激しさを増し行く。

陽子とアオシスで食事をした。医療裁判で疲れている様子だったが、千晶はそのことに触れないようにした。それが後で後悔することとなった。

翌日陽子は病院に無断欠席している。千晶は高峰事務長と自宅を訪れた。そこには陽子が亡くなっていた。遺書も見つかった。自殺の原因は、当初陽子についていたナースが証言を翻し敗訴となる可能性が高くなった。損害賠償額は1億6千万円。陽子は自分の生命保険をあてようとして自殺したのだ。

さらに追い打ちをかけるように、金田医師がクレーム対応している最中に患者に刺され入院。二人の穴を埋めるよう言われたがとても無理である。

病院の患者は大きく減少した。座間の千晶に対する執拗な攻撃、医師の自殺と殺傷事件など週刊誌にそれらの記事が掲載されたのが原因であった。

ある時、座間がやってきて、千晶の名を大声で叫び、病院内を騒がしている時、病院に車が突っ込み、座間は意識不明の重体、3名が亡くなり11名が重軽傷を負った。警察が事故調査に入り、座間のことも色々な容疑で調べが入った。そして、座間を雇って病院の誹謗中傷を繰り返していた犯人が病院の事務主任の沼田で偽計業務妨害容疑で逮捕された。沼田も近隣の病院に依頼され、当病院を陥れるためにやったことが今回事件の顛末であった。

千晶は、母の物を片付けに実家に帰った。

千晶は父に「怒っている患者にどう接すればいいか」聞いた。

父は「その患者からよく話を聞いたのか、どうして怒っているのか聞いてごらん。何か不安なことがあるとか、他のことが見えてくると思うよ」「千晶は誠実に患者の癒し続ける人でありなさい。その医療がいかにかさやかであろうが、愚直に見えようが、誤解を生もうが、力不足であろうがいいんだ。」「ささやかな医療であっても誠実ならば、その気持ちは必ず患者に伝わる。愚直に見えても、それが王道だと知ってもらえる。誤解を生んでも、時を超えて理解される時がくる。力不足だったという経験を糧に精進すればいい。最初から完璧な医師なんていないんだから。」「どんなふうに使われようが、何があろうが、それでも患者に誠実な医師でいなさい」

法要を終え病院に戻った。

警備の蓮見が退職の挨拶に来た。座間の行動分析結果を説明した。座間はマニュアルの「病院に危機をもたらす患者様の問題行動」の9項目をその通りに実行していたのだ。座間は千晶に悪感情など抱いていなかった。病院の若い女医をターゲットにするよう指示を受けていただけであった。

今日も診療を終え、9時をまわっていた時、患者からお礼の言葉をもらった。

「治療の場を争いや対立の場にしたくない。そのためには自分がまず受容する存在になることだ。患者の声を聞こう。誠実であり続けよう。あたたかい言葉で満たそう」ここがいつまでも癒しの場でありますように、そう祈りながら病院を出た。

12時間後に明日の診療が始まる。